

敬言、警官による不当捜査・介入写真報告

第十回釜ヶ崎夏祭(昭和五十六年八月十二日から十五日)

撮影者 久保利明

カメラ ミニタニ 腰自動カメラ
フィルム ミニントライク

夏祭り準備中

会場の花園南公園

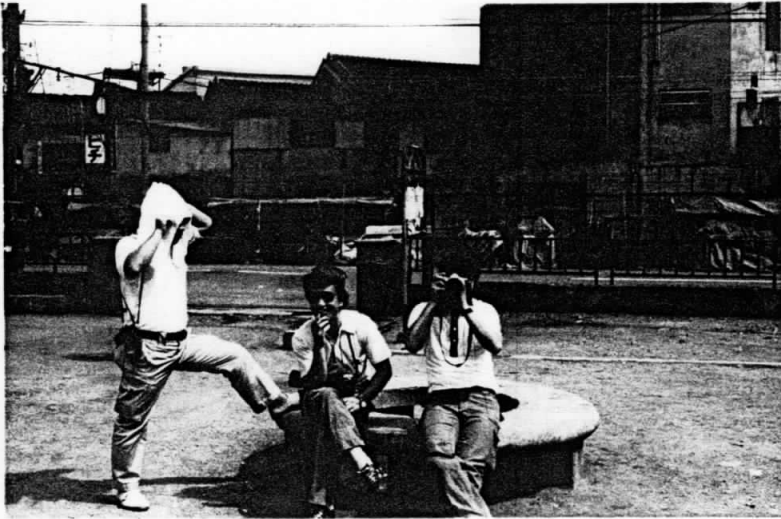
通称三角公園に

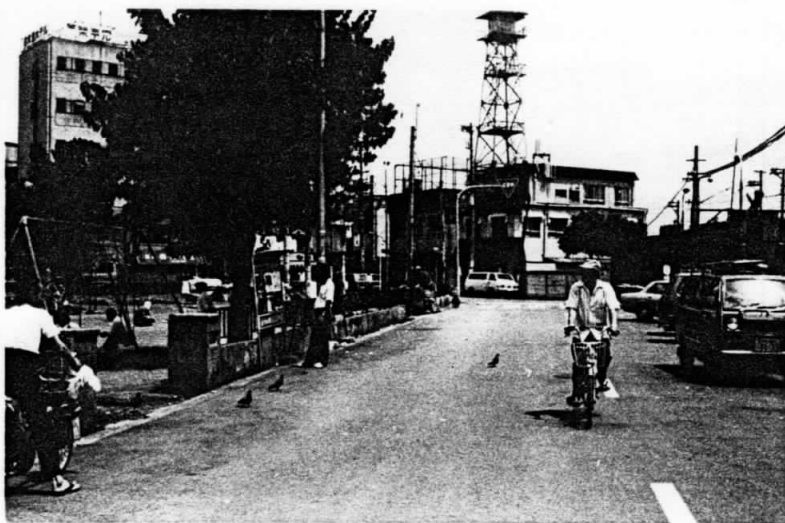
入り込み、不法な

写真撮影、情報

収集をおこなう

警察官(上・下共)





①

②

公園外から
望遠レンズを使っ
て写真撮影を
おこなう警察官

(①②③④)



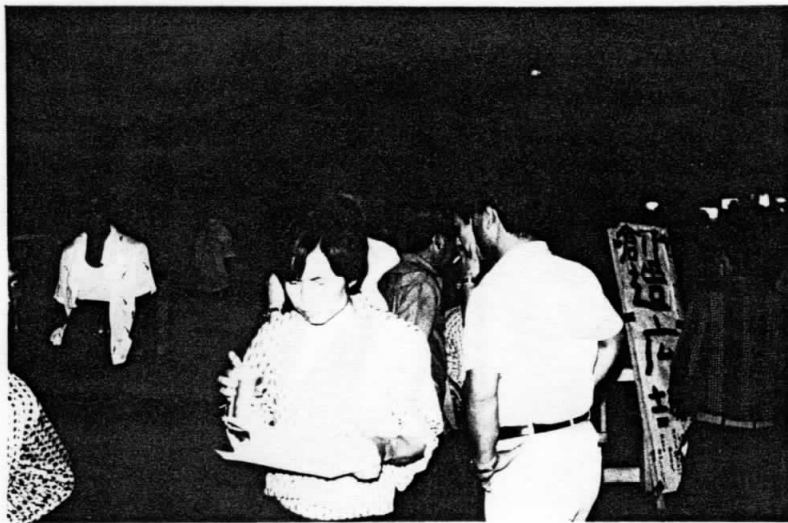


③

④



⑤



夜店などの真近に入り込め、実行委のメンバーによる

抗議を受けて

退去する

警察官。(上・下共)





夜店・パネル週刊

にたむろする敬告官

(上・中頃に横一列に写っ

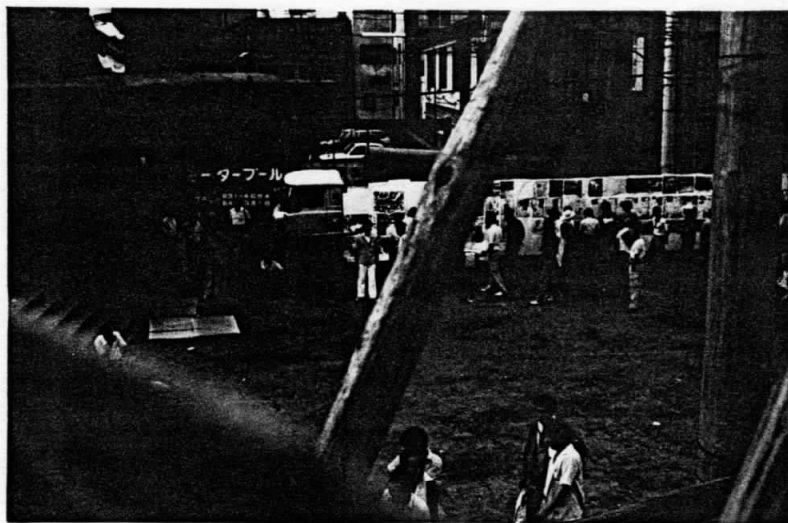
ている田カ二十名)

(下・手前に写っている

丸太より左に写って

いる田カ十名)

ヤグラのよから撮影



(c)

写真六上 **口** 釜井委員長と友人の会話を盗み聞こうとする

警官(写真中央)

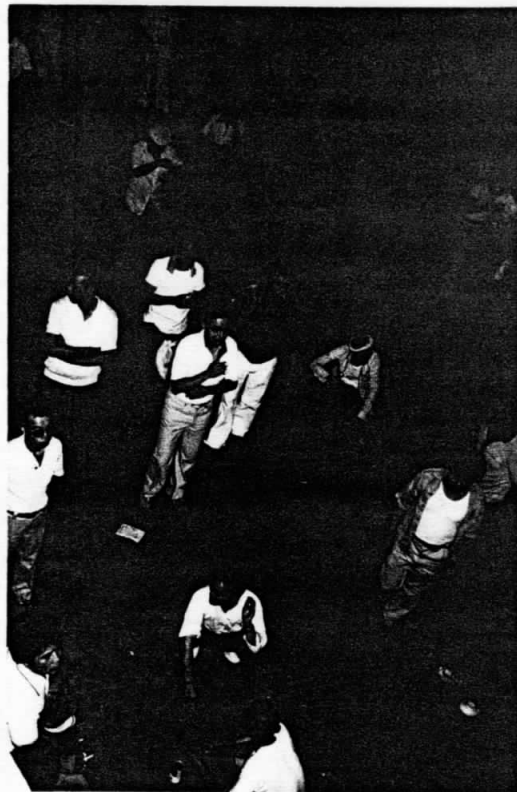
写真六下、会場内

に立入っている

警官(中央四人)

ヤブのよからし
横断線





会場奥深くに不法侵入している警官。

写真上・看板すぐ左の帽子を被った男。

写真右、中央の袋を肩にした黒いシャツを

着た労働者の左前に立つ男。

写真右：中央部様二本線のシャツを着た男、その左、左肩にヒミ様のものをかけた男、そして、袖をさげた労働者の右上の男

夏祭りにおける写真に見られるとき、警察官の行動は、

違法であり、過剰警備にあたることは明らである。衆しおづく祭りに参加した労働者にとって、祭りの参加者でなく、会場内をニラミつける警官は、どのようなものとして感じられるだろうか。少くとも公園の外へ出て欲しいと思ったとしても決して不自然ではない。

